

いつの世にも変わらぬものはない。

社会の仕組みも価値観もすべて世につれである。

私自身、その変化を的確にとらえ、対応することが使命だと思っている。だから、変わりいくもの、変わらざるを得ない事を否定するつもりはない。

先日、新聞記事が目にとまった。"おから"は「産業廃棄物」であると最高裁判所が判断したというのである。日本の食文化の中で長く生きつ

づけ、「卵の花」というシャレた名を持つ、あの"おから"である。

その理由は「おから」が役に立った時代もあったが、現在の処理の実態を調べた結果判断すると、

全体として見れば"おから"は不要物であり産業廃棄物にあたる」ということらしい。

子供の頃よく食べさせられた"おから"は、私にとって決して好物ではなかった。栄養があるんだからたくさん食べると言われても、何でこんな物をと不満がつつた。そのことは郷土料理"しもつかれ"にも共通する。

しかし、四十歳を過ぎて、今は大好物となった。

何故好物になったのかと問われても味覚がそうだったとしか答えようがないが、あえて理由を探すとすれば、自分の人生への思いをも味覚に加えられる年齢になったということであろうか。食うことが、生かし生かされるものへのいとおしさに通ずる様になったのである。

3月16日の天声人語に、

廃校になる芳賀町の上

稲毛田小学校の子供

たちが野鳥のために

木を残すことが報

じられていた。美

しい話であった。胸

一杯にあふれる誇り

を感じながら読んだ。

今日を生きるものは

明日を生きるもののため

に。

命の輪廻は、残りの姿のありようによる。

人が夕焼けに感動するのは

そのようなことなのかも知れない。

いつの世にも変わらぬものはないと認めつつも、変えてはいけないものもあると強く強く思うのである。

(町長 記)

夢だより 風だより